



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2023年度 NO.2

■目次

- ・第25回大会開催に向けて
- ・理事会報告
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・学会表彰委員会
- ・企画研究委員会報告
- ・25周年記念誌刊行WG報告
- ・支部活動報告
(北海道支部、東日本支部、関西支部、九州支部)
- ・事務局からのお知らせ
- ・会員情報

第25回大会開催に向けて

大会テーマは、「共創による新たなインターンシップの展望」です。前大会での「原点回帰。今改めてインターンシップを考える。」を基盤にしながら、新たな「共創」に向けた議論を期待するものです。若者と企業（社会）が協働することになるインターンシップにおいて、異なるアクターによる「Win-Winの関係」、一過性の取り組みではない「持続発展する共創の関係性」の構築に向けて何が必要なかを考えたいと思います。

基調講演では、現在の労働市場・若者のキャリアなどの視点から、昨今の職場や若者の考え、今・これから求められるインターンシップについて話題を提供いただきます。若者や社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化を遂げています。情報技術革新に伴う働き方の変化、働く価値観に対応し、企業や大学はどのように変化・進化を遂げるべきなのでしょうか。「Z世代」と呼ばれる若者は、今、何を求めて何を課題として認識しているのでしょうか。



シンポジウムでは、「東海地域」を中心に、多様なアクターと連携した新たな取り組みの実践者らの事例紹介と、その事例がどのように生まれたのかを議論します。多様なアクターが、単に一緒に実施するだけのコラボレーションを超えて、

お互いにメリットを享受するにはどうすればよいのでしょうか。持続的な発展を遂げる「共創」が成立するための連携のあり方や要素・諸条件、「共創」の実現に向けた障壁について議論します。これらに先立つ開催校イベント企画では、学生にも登壇してもらい、事例紹介をします。

東日本支部の担当となる第25回大会は、昨年が続く完全対面にて2日間で開催することになりました。会員の皆様にとっても「共創」の場になるよう、大会実行委員会一同、精一杯準備を進めております。準備や当日の運営に際して、何とぞご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

<第25回大会概要>

- 開催日: 2024年9月14日(土)・15日(日)
 - 開催担当校: 愛知東邦大学キャンパス(愛知県名古屋市中東区平和が丘3丁目1番地)
 - 開催形式: 1日目・2日目ともに対面方式
 - 主なスケジュール(予定)
- 1日目: 9月14日(土) 11:00~18:00
- ・開催校イベント「Rethink 愛知東邦大学—共創の舞台づくり」(仮)
 - ・開会式
 - ・基調講演「若者・社会を取り巻く職場環境と働く価値観の変化」(仮)
 - ・シンポジウム「これからインターンシップには、何が求められるのか」(仮)
 - ・学会表彰委員会「高良記念研究助成報告」18:10~20:00 懇親会(学内食堂を予定)
- 2日目: 9月15日(日) 9:30~13:00
- ・自由研究発表
 - ・閉会式
- ※スケジュールは変更になる場合があります。詳しくは大会要項(7月下旬発信)でご確認ください。

- 研究発表申込 2024年5月14日(火)~6月14日(金)

申込フォームに必要事項を漏れなく記入の上、お申し込みください。

▼研究発表申込フォーム

(<https://forms.gle/69Q8w6sQFS5jEXJ46>)

■大会参加申込・懇親会参加申込

(早割) 2024年5月14日(火)～8月14日(水)

(一般) 2024年8月15日(木)～9月13日(金)

インターンシップ学会第25回大会参加申込サイト・懇親会参加申込サイト(peatix)から参加申込・支払手続きを行ってください。

▼第25回大会参加申込サイト

(<https://peatix.com/event/3944868/view>)

▼懇親会参加申込サイト

(<https://peatix.com/event/3945049/view>)

なお、これらのサイトは、日本インターンシップ学会 web サイト内の第25回大会ページ

https://js-internship.jp/JIS_OLD/25th-taikai/25th-taikai.html の「大会参加申込」「懇親会参加申込」からもアクセス可能です。

多くの会員の皆様からの研究発表とご参加をお待ち申し上げております。

(第25回大会実行委員長 手嶋慎介・

愛知東邦大学)

理事会報告

2023年度 第3回理事会 (2023年11月21日 *Web会議)

入退会の審査と第25回大会の基本計画について協議しました。また、総会ならびに前回理事会の議事録が確認されるとともに、第24回大会、各委員会・各支部、25周年記念誌編纂WGの活動状況が報告されました。加えて、事務局より、①オンライン決済の案内(活用)についての周知への協力、②支部活動費の振り込み予定、について依頼と説明がありました。協議の概要は次のとおりです。

(1) 入退会の審査

・事務局より資料が提示され、協議を行った結果、入会3件(個人会員2件、法人会員1件)を承認しました。

(2) 第25回大会の基本計画

・手嶋大会実行委員長より、資料に基づき、第25回大会の基本計画について説明がなされた。開催日程が2024年9月14日(土)、15日(日)、開催場所は愛知東邦大学で対面方式による開催を予定していること、また、大会テーマを「共創による新たなインターンシップの展望」(案)とすることなどが説明され承認されました。

2023年度 第4回理事会 (2024年1月10日

*書面会議)

『インターンシップ研究年報』第27号への投稿資格が「日本インターンシップ学会の会員であり、2023年度の会費を2024年1月20日までに納入していること」とされていること、あわせて、会則第6条により「入会の申込みがあった時は、理事会においてその諾否を決定する」と規定されていることを踏まえ、入会希望者の投稿資格を保証するため、添付資料の通り、11-12月の入会希望者の入会審査を臨時書面会議として開催し、書面評決を行いました。評決の結果、入会1件(個人会員1件)を承認しました。

2023年度 第5回理事会 (2024年2月26日 *Web会議)

名誉会員の推薦、入退会の審査と第25回大会の準備状況を協議しました。また、第3回・第4回の理事会の議事録を確認するとともに、各委員会・各支部、25周年記念誌刊行WGの活動状況が報告されました。加えて、事務局より、次回以降の理事会の日程が説明されました。協議の概要は次のとおりです。

(1) 名誉会員の推薦

・吉本会長より、資料に基づき、田村紀雄会員、田中宜秀会員を名誉会員として推薦することについて説明があり、次回総会で提案することが承認されました。

(2) 入退会の審査

・事務局より資料が提示され、協議を行った結果、入会1件(法人会員1件)を承認しました。退会4件(個人会員3件、法人会員1件)については、名誉会員としての推薦を受けた1件を保留とし、これを除く3件(個人会員2件、法人会員1件)を承認しました。

(3) 第25回大会の準備状況

・手嶋大会実行委員長より、資料に基づき、第25回大会の準備状況について、実行委員会の体制と役割、プログラム等の説明がなされ、承認されました。また、大会専用Webサイトの開設や大会に関する情報発信について協議が行われ、学会のWebサイトの中に大会案内を掲載するかたちで進めることを決定しました。

(事務局長 山口圭介・玉川大学)

年報編集委員会報告

『インターンシップ研究年報』第27号を編集しております。本号への投稿は2024年1月20日に締め切れ、研究論文には4本、資料等には2本、計6本の投稿がありました。現在、2024年10月末の発行に向けて、委員以外の会員諸氏のお力も

戴きながら、査読ならびに内容確認を進めております。

次号（『インターンシップ研究年報』第28号）への投稿は、2025年1月中旬を締切とする予定です。「編集規程」ならびに第28号に適用される「研究論文・資料等投稿規程」につきましては、2023年度総会（2024年9月15日開催予定）後に、確定版を本学会 Web サイトならびに第27号巻末にて公開予定です。第28号への投稿をお考えのみなさまは、投稿までにこれらを必ず確認し、締切、書式を含め、規程にしたがって原稿を準備してください。規程に従っていない投稿を受け付けることはできませんので、どうぞご注意ください。

なお、既にお知らせしておりますように、年報編集委員会のメールアドレスが jsi.edit@js-internship.jp に変更されましたので、第28号への投稿・寄稿、ならびに委員会へのお問い合わせには、この新しいメールアドレスをご利用下さいますよう、お願いします。

会員のみなさまからの意欲的な投稿を、心よりお待ちしております。

（年報編集委員会委員長 稲永由紀・筑波大学）

広報委員会報告

学会 Web サイトのリニューアルについて

広報委員会では、ニュースレターやメルマガ配信などの通常の広報委員会業務に加えて、現在、学会 Web サイトの大幅なリニューアル作業を実施中です。会員の皆様だけでなく、広く学会の活動を周知できる Web サイトの構築を目指しております。

ニュースレターの発行、学会 Web サイト・メールマガジンの配信について

広報委員会では、年2回（春、秋）にニュースレターを発行し、会員の皆様に学会活動の情報をお届けしています。また、学会 Web サイトやメールマガジン配信について広報委員会では本学会に寄せられた研究会やセミナー開催案内および教員公募等、会員の皆さまにとって有益な情報を学会 Web サイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。本学会に関連する情報がございましたら、広報委員会までメールでご連絡ください（jsi.prc@gmail.com）。なお、最終的な掲載可否は広報委員会で検討させていただきますのでご了承ください。

会員情報更新・アドレス連絡について

ご異動等で会員情報が変更された場合（メールアドレスや所属など）には、学会 Web サイトトッ

ページの「会員情報照会・更新」アイコンから各自で情報更新をお願いいたします。大切なご案内等が届かないことにもなりますので、お早目の更新をお願いいたします。

（広報委員会委員長 上岡史郎・

目白大学短期大学部）

学会表彰委員会報告

2024年度（第18回）高良記念研究助成について

本学会では、2007年度からインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進に向けて「高良記念研究助成」制度を設け、優れた研究課題への研究助成を行っております。

2023年度（第17回）は、角光通子会員（宇部フロンティア大学）の「企業・施設の受け入れ側からみる大学生インターンシップの成熟モデル—山口県インターンシップ推進協議会 登録企業調査より—」が採択されました。

2024年度（第18回）の研究助成につきましては、現在申請を募集中です。若手研究者、大学院生（年齢不問）、実務家、複数会員による共同研究の応募も歓迎いたします。学会 Web サイトに掲載されている募集要項をご確認の上、応募書類をご提出ください。多数の応募申請をお待ち申し上げております。

●応募締切：2024年6月21日（金）23:59

第6回榎本記念賞について

榎本記念賞は、初代関西支部長を務められた榎本淳子氏（元・大阪経済大学教授）からのご寄付をもとに創設されたもので、インターンシップの発展と高度化を願い、「秀逸なインターンシップ」事例の収集を目的として、2年に1回の表彰を行っております。第6回となる今回は、2023年6月から2025年5月末までの2年間に各支部研究会ないし学会大会で発表された事例の中から、各支部より推薦をいただき、審査を経て2025年に開催される学会大会にて表彰式を実施する予定です。スケジュールや評価項目などの詳細につきましては、学会 Web サイトにて掲載されておりますのでご確認ください。また、今後の同賞のあり方について議論していく予定です。

（学会表彰委員会委員長 眞鍋和博・

北九州市立大学）

企画研究委員会報告

企画研究委員会は、学会員のさまざまな学術的、実践的な研究活動、特に共同での研究活動を促進

するとともに、学会として必要とされる研究活動を企画する委員会です。今期のテーマは、前期に続き「インターンシップ専門人材（仮）の養成」です。世界・日本で専門人材の養成に取り組む WACE（World Association for Co-operative and Work Integrated Education）および CIAC（一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム）につきまして、学会員でもある田中寧会員、松高政会員をお招きして研究会を開催しました。今後、昨年を実施した「日本インターンシップ学会会員アンケート」に基づく研究会を開催する予定です。ここで明らかになる会員ニーズの動向を踏まえ、これまでの成果をいったん取りまとめる予定です。

（企画研究委員会委員長 平尾元彦・山口大学）

25周年記念誌刊行 WG 報告

学会創設 25 周年事業の一環として、25 周年記念誌刊行 WG が 2022 年 8 月 25 日理事会にて設置が承認され、2024 年 6 月末までの約 2 年間に任期とした活動を行っています。本 WG は、委員長を江藤智佐子会員（久留米大学）が、委員として山口圭介会員（玉川大学）と和田佳子会員（札幌大谷大学）の 3 名で構成されています。『日本インターンシップ学会創設 25 周年記念誌』は、『日本インターンシップ学会～10 年の記録～』（2011 年 3 月 31 日発行）以後の 2008～2022 年度までの 15 年間の学会変遷の記録を残すことをコンセプトに編纂することになりました。ただし、支部の記録に関しては、4 支部の歴史を残すために各支部の創設から 2022 年度までの記録を掲載しております。本記念誌編纂には多くの会員の皆様にご協力をいただきました。記録の確認、情報提供をいただいた会員の皆様には、この場を借りて心より御礼申し上げます。来月（2024 年 6 月）の発行を目指し、委員一同、最終段階の編集作業に精進しております。会員の皆様のお手元には 6 月末頃にお届け予定です。また、電子版（PDF）は、7 月中旬以降に学会 Web サイトに公開予定です。

（25 周年事業 25 周年記念誌刊行 WG 委員長
江藤智佐子・久留米大学）

支部活動報告

【北海道支部】

北海道支部では、2024 年 3 月 3 日（日）に、北海商科大学にて 2023 年度研究会を日本ビジネス実務学会と共同で開催いたしました。今回はビジネス実務教育を研究領域とする日本ビジネス実務学会（JSABS）北海道ブロックとのコラボ

レーションとなりました。

今回の研究会では「時代の変化における社会変化と最新ビジネス」をテーマとして、2 名の方から講演をいただきました。

①「多様性が求められる時代のジェンダーとキャリア形成」川名早苗氏

②「ヤフービッグデータの公共領域、ビジネス領域での利活用について」兵藤安昭氏（ソフトバンク株式会社）

インターンシップを取り巻く環境は、コロナ感染症や AI の活用、また働き方改革などの社会変容により大きく変化しています。大学教育の視点では、変化を受け入れながらも、これまでのインターンシップや WIL をどのように発展させるか、という考えが中心となりがちですが、ビジネスの現場においては、既に劇的な変化の中での事業継続・拡大が求められています。

日々変わる環境のもとで、学生・企業・教育機関がメリットを得られるインターンシップや WIL について検討する必要があります。

北海道支部では、引き続きインターンシップを取り巻く社会の変容について、周辺領域の学会との合同研究会等を推進していく予定です。7 月には 2023 年度支部総会を開催いたします。詳細につきましては、メールマガジン等でお知らせいたします。

（北海道支部支部長 小林純・

札幌国際大学短期大学部）

【東日本支部】

2023 年度 第 2 回支部研究会

第 2 回支部研究会は、3 月 21 日（木）にオンライン形式（Zoom）で開催し、全国から 22 名参加をいただきました。当日は、支部運営委員の高澤陽二郎会員（新潟大学）と二上武生会員（工学院大学）から取組事例を発表いただきました。まず高澤会員から、低学年（学部 1・2 年生）を対象とした正科のインターンシップの実践を踏まえて、「目指したい教育効果に基づいた事前学習～成果発表までの一貫性」と「受入企業との継続的なコミュニケーション」、それらを実現する「仕組み化」の 3 点について紹介いただきました。次に二上会員から、これまで取り組まれた 5 つの事例について「ステイクホルダーとの思い・ねらいの共有」「自分のできる範囲での関わり」「Win-Win の関係づくり」の 3 つの観点から解説いただきました。発表後の質疑応答では、活発な意見交換がなされ、盛会のうちに研究会を終えることができました。

2023年度 第3回支部研究会および支部総会について

第3回支部研究会は、6月22日（土）に愛知東邦大学での開催を予定しています。併せて、支部研究会終了後に支部総会を開催する予定です。今後詳細が決まり次第、支部会員の皆様にご案内をさせていただきます。

（東日本支部支部長 松坂暢浩・山形大学）

【関西支部】

関西支部第18回研究会を開催しました

関西支部は、2023年12月15日（金）にキャンパスポート大阪で支部研究会を開催しました（共催者：大学コンソーシアム大阪のご協力を得て、対面とオンラインのハイブリッド形式）。テーマは「インターンシップにおけるさまざまな連携の記録」です。

最初に、南大阪地域大学コンソーシアムの難波美都里事務局長が「インターンシップの枠組みを活用した人材育成プログラムに挑戦し続けて～大学コンソーシアム等の活動実践を通じて～」を報告されました。難波氏は、2002年に設立された南大阪地域大学コンソーシアム（本部：堺市）で活躍され、インターンシップを始め、「大阪府消費者教育リーダー」育成事業（大阪府消費生活センターが2016年度より開始、和歌山大学の岡崎裕教授＜昨年度の第17回研究会で発表＞と連携して様々な大学の学生を指導）など、人材育成事業を幅広く手掛けられました。2024年4月から南大阪地域大学コンソーシアムが大学コンソーシアム大阪と統合されることを機に、20年余のご活動を振り返っていただきました。存続団体である大学コンソーシアム大阪（本研究会の共催者）にとっても貴重な記録となりました。

次に、京都精華大学の中井咲貴子会員がZoomで「芸術・デザイン系大学においてインターンシップが果たす役割とは」を報告されました。同大学は、国際文化学部・メディア表現学部・芸術学部・デザイン学部・マンガ学部を擁し、留学生が3割近いほか、クリエイター志向の学生が少なくないなどの特性を持っています。そこで、狭義のインターンシップを含めた「社会実践力育成プログラム」（20人程度の科目を50科目弱提供）を2021年より開設しました。受講者アンケートに基づく定量的な分析から、社会人基礎力のうち伝達力と協調力に統計的に有意な向上がみられ、大学生活の充実感が高まったことも確認されました。

報告後の交流会では、Zoom参加者も含めて、有意義な意見交換が行われました。

（関西支部長 安孫子勇一・近畿大学）

【九州支部】

九州支部 第31回研究会報告

2024年1月29日（月）にオンライン（Zoom）形式で第31回九州支部研究会を開催しました。実践型研究会として、「往還の実践とその相対化ー越境学習の視点からー」をテーマに、越境学習という観点から職業統合的学習（WIL）を理論と越境学習者（教員、企業）の双方から事例を報告がなされました。副支部長の古賀正博会員（九州インターンシップ推進協議会）からの開会挨拶、江藤智佐子会員（久留米大学）からの趣旨説明の後、坂田美和子会員（九州インターンシップ推進協議会）の司会により3名から話題提供がなされました。

第1の報告は、『地域』と『企業』を『学び』でつなぐ、JMAMの越境学習』として、石井敏弘氏（㈱日本能率協会マネジメントセンター 越境ラーニングセンター長）から越境学習の位置づけとJMAMでの越境学習実践事例について報告がなされました。実際の越境学習者の事例だけでなく、ループリックを用いたセルフアセスメント方法なども紹介されました。

第2の報告は、「教員から学生、日本から英国、2つの越境経験からの視座」と題し、眞鍋和博会員（北九州市立大学）が、自身の社会人留学の具体的な経験をもとに越境体験の自己省察について報告がなされました。

第3の報告は、高橋康徳氏（株式会社カウテレビジョン代表取締役社長）から「企業間の社員交換留学」と題し、企業交換留学について、制度設立経緯や取組み内容その効果が紹介されました。

これら3つの報告を受け、ディスカサントの平尾元彦会員（山口大学）によるパネルディスカッションを行い、越境学習をどのように大学教育に取り入れていくのか等、熱のこもった議論が展開されました。最後に、総括として吉本圭一会員（滋慶医療科学大学）から、「日常と他日常、ハレとケ」、その期間、大学教育への効用についてパネルディスカッションの内容を整理し、実践の相対化への示唆がなされました。参加者数は29名（うち非会員7名）と、幅広い地域や所属の方に参加いただき、盛会のうちに研究会を終えることができました。

九州支部 第32回研究会報告

2024年4月19日（金）に久留米大学福岡サテライトにおいて、『実践』と『研究』との対話ースタートアップ支援研究会（3）』をテーマに第32回九州支部研究会を開催しました。

最初に開会挨拶・趣旨説明を九州支部長の眞鍋和博会員（北九州市立大学）が行い、「全国大会へ

GO!」を合言葉に、研究の入り口に立った会員を支援することを目的とした3回目の研究会であることが説明されました。

第1発表は、2023年度高良記念研究助成の授賞者である角光通子会員（宇部フロンティア大学就職課課長）より「企業・施設の受け入れ側からみる大学生インターンシップの成熟モデルー山口県インターンシップ推進協議会 登録企業調査よりー」と題した中間報告がなされました。この発表を受け、コメンテーターの嶋田文広会員（熊本学園大学）から調査デザインや定義づけなど研究上のアドバイスがなされました。

第2発表は、上野恵美会員（下関市立大学）より「日本における教育的効果の高いインターンシップ等専門人材に求められる能力要件」と題する発表がなされ、コメンテーターの井本浩之会員（西九州大学）から研究対象の焦点化など具体的なアドバイスがなされました。

最後に吉本圭一会員（滋慶医療科学大学）から総括として2つの研究発表に対し、それぞれコメントがなされ、学術的アプローチの例として「社会的創造力」が示されました。副支部長の古賀正博会員（九州インターンシップ推進協議会）から閉会の挨拶がなされ、次の研究につながる交流が行われました。

参加者数は19名と、北海道から鹿児島まで幅広いエリアから参加いただき、盛会のうちに研究会を終えることができました。

（九州支部広報委員 桑畑夏生・宮崎大学）

度よりオンラインでの決済も可能となりましたので、ぜひご活用ください（学会ホームページの「会員情報照会・更新にログイン後「オンラインクレジット決済システム」または「年会費のクレジット決済」へお進みください）。

なお、2023年度（2023年7月から2024年6月）分の会費につきましても、納入をお願いいたします。『研究年報』投稿、役員選挙、大会発表は2024年度の会費を納入済みであることが条件ですので、入金はまだの方は速やかに納入いただきますようお願いいたします。

【振込先】

- ・郵便口座 02750-1-108419
口座名義（「加入者名」の欄）日本インターンシップ学会
- ・ゆうちょ銀行
店番：279（当座）
口座番号108419
口座名義：日本インターンシップ学会
*恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

（事務局長 山口圭介・玉川大学）

事務局からのお知らせ

2024年度会費納入のお願い

2024年度の会費納入につきまして、会員の皆さまに案内を送付させていただいております。昨年

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2023 No.2

発行日：2024（令和6）年5月31日

発行：日本インターンシップ学会 会長 吉本圭一

編集・印刷：日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 上岡史郎

事務局：日本インターンシップ学会事務局 事務局長 山口圭介

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル401

(株)ガリレオ学会業務情報化センター内

日本インターンシップ学会 会員管理事務局

TEL：03-5981-9824 FAX：03-5981-9852

e-mail: g035jsi-support@ml.gakkai.ne.jp